



赤こりレポート 馬場利男リポーター



地域で見守る新一年生

「おかえり」「ただいま」スクールガードと児童のいつものかわいいあいさつ。少し慣れたのか幼稚園気分がぬけないのか、先生と手をつないで話しながら帰る児童の姿も見られます。金田小学校では入学から1週間がたった4月16日が最後の集団下校日となり、翌週からは学年別の下校が始まりました。昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため緊急事態宣言が出され、入学式もままならず、学校の再開も6月からと児童たちも振りまわされた大変な年でありました。今年も先行きが不透明ですが、コロナ禍の鎮静化と事故が起こらないことを祈っています。

赤こりレポート 東恵子リポーター



農福・水福で町を元気に！

建設業を営む傍ら、農業、水産業と福祉が連携し、障がい者の就労を支援する事業に力を注いでいる桐原学区在住の奥井敦史さん。重度身体障がいの妹がいることで、思いが広がっていったそうです。水産業では、東近江圏域働き・暮らし応援センターのサポートを受けて、障がいのある人も琵琶湖に漁に出て、加工から販売までしています。一方農業では、食物繊維が豊富で免疫力を高めるビタミンDが多く含まれるキクラゲをハウスで栽培。ハウスの中は一定の温度で保たれており、体温調節の難しい人も働きやすいそうで、「就労中や将来を親御さんに安心してもらえるよう、障がいのある人だけでなく親御さんも一緒に働ける職場にしていきたい」と意気込みを語っておられました。

5月6日



全国小学生ソフトテニス大会で優勝の偉業

千葉県で開催された「全国小学生ソフトテニス大会」に滋賀県代表として参加し優勝を果たした野間結菜さん（安土町西老蘇）に、小西市長から「市スポーツ優秀選手金賞」が授与されました。野洲ジュニアソフトテニスクラブに所属していた野間さんは同クラブの越野みずきさんとペアを組み、152組が参加するなか勝ち進み優勝。ダブルス女子の部で県勢初となる偉業達成となった野間さんは「一生懸命練習に励んできたので優勝できてうれしい。これまで応援してくれた人にお礼を言いたい」と述べました。

4月22日



握りたてのお寿司を楽しんで！

「廻鮮寿司海座」を経営する株式会社ファイブスターが、生活介護事業所のおうみ作業所（加茂町）で出張寿司を振る舞いました。同社が社会貢献活動の一環として福祉施設などの利用者を店舗に招待して食事を楽しんでもらおうと実施しており、近江八幡店がオープンして20年目を迎えることから、コロナ禍ということもあり出張寿司という形で実現。入口にはのれんがかかり、寿司ネタが並んだショーケースは店舗さながらの雰囲気。同作業所の利用者32人は次々と運ばれた握りたての寿司に舌鼓を打っていました。

4月23日



小学6年生が校外学習で議会体験

市民の願いがどのようにして実現するのか、市議会や市役所のはたらきを通して学習するため、桐原小学校の6年生96人が市役所4階の議場を見学。生徒全員が執行部席や議員席に着席し、小西市長や大喜多教育長、片岡議長、岡田副議長が入場して議会体験が行われました。市長から市議会の仕事について大型遊具の設置を例に挙げて説明。生徒が質問して、市長がその質問に議会形式で答える場面もありました。片岡議長は「これから議会に興味をもって近江八幡のまちを良くしてってもらいたい」と呼びかけました。

4月14日



濃厚接触者の障がい者を支援する協定締結

障がいのある人が新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者となった場合に、経過観察のための宿泊施設を提供いただく協定を、日本興機株式会社と本市、東近江市、日野町、竜王町の東近江圏域2市2町で結びました。本来、経過観察中の2週間は障がい福祉サービス事業者による支援を受けながら自宅待機することになりますが、この協定によって、障がいのある人が自宅での経過観察が困難な場合に、一時的な生活の場として東近江市にあるホテルを利用できることとなりました。

4月27日



県内ツアーを開催する西川貴教さんが来幡

滋賀ふるさと観光大使でミュージシャンの西川貴教さんが市役所を訪れ、小西市長に今年の5月中旬から12月下旬にかけて行う県内ライブツアーの開催を報告されました。今回のツアーは「T.M.R LIVE REVOLUTION '21 VOTE」と題し、T.M.Revolutionのデビュー25周年を記念し、県内10市の11会場で25公演行われます。西川さんは「大阪府や京都府に緊急事態宣言が発令されている中ではあるが、県が定めた感染予防対策を徹底しながら実施したい。コロナ禍の中、滋賀県の皆さんに少しでも元気になってもらえるように頑張りたい」とツアーへの抱負を語りました。

4月21日～5月18日



青空に悠然と泳ぐ130匹の鯉のぼり

川沿いを散歩して楽しむ親子や総合医療センターの入院患者、医療従事者の心の癒しになるようにと「白鳥川の景観を良くする会」が、総合医療センター前の白鳥川で大小130匹の鯉のぼりをあげました。9回目の開催（昨年は新型コロナウイルスにより中止）で、今年は医療センター前のフェンスにブルーの文字で、医療従事者へ向けた「アリガトウ」のメッセージも届けられました。早速、近隣に住む親子連れやランニング中の人々が足を止め、あげられた鯉のぼりを楽しんでいました。